

令和6年度 学校経営報告

東京都立足立東高等学校

校長 平田 誠一

1 総評 「リスタディ&スキルアップ2.0」

本校はエンカレッジスクールとして、30分授業や少人数・習熟度別授業などの特色ある教育活動により、基礎学力の定着に重点を置いて学校経営に取り組んでいる。そしてこの「学び直し」のさらなる充実を目指して、令和4年度から「脱D3」を合言葉に数々の学力向上策（シン・アダチヒガシ）に取り組んできた。今年度は、その学校改革から3年目にあたり、成果・検証をともなう節目の年であったが、生徒の潜在能力は教員の想像をはるかに超え、基礎力診断テスト（ベネッセ）におけるGTZ（学習到達ゾーン）にも顕著な学力の伸長が見られた。また、2年目を迎えた「スキルアップ推進校」事業も軌道に乗りはじめ、「リスタディ&スキルアップ 2.0」のスローガンを、まさに体現しつつある。さらに今年度から「海外学校間交流推進校」に認定され、7月にはヨルダン、2月にはインドネシアの高校生が本校を訪問し、授業や部活動等で交流を深め、生徒のグローバル感覚を向上させることができた。以上のとおり、次年度の「創立50周年」に向けて、「学び直し・スキルアップ・海外交流」、この3本の柱が本校の学校経営を支える屋台骨となった。

2 今年度の取組目標等に関する自己評価

① 学習指導 【B】

※ 一人一台端末を活用した「分かる授業」の推進【脱D3】

- ・学校経営計画に「一人一台端末を活用した学習指導」と「ICTを活用した学習指導」を授業観察の視点として明記し、年2回の授業観察を実施した。その結果、95.2%の高い割合で、デジタル技術を活用し、生徒の興味・関心を喚起する授業が行われた。
- ・また、授業観察期間中の全ての授業を公開授業とし、教員同士の相互授業参観を推進した。教員には年2回以上の授業参観を促し、気付いた点を「授業参観シート」にまとめて相互のフィードバックに活用した。なお、年間を通じて提出された授業参観シートは120枚を超え、一人平均2.85枚であった。
- ・習熟度別授業や少人数授業による個に応じた指導の充実は、学校評価アンケートの結果、86%の生徒が、「役に立っている」と回答している。引き続き、学力向上研究校および基礎基本学習個別支援事業による外部人材を活用した放課後個別学習教室（マナビバ）等を併用しながら、授業についていけない生徒を一人でも減らしていく。
- ・学力向上委員会が中心となって、基礎力診断テストの結果を定点観測しながら「脱D3」に向けた組織的な取組みを継続した。その結果、学力向上策に舵を切った令和4年度に入学した現3学年生徒の65%がD3ゾーンを脱却して卒業し、学校改革の成果を大いに検証することができた。

② 進路指導 【A】

※ キャリアガイダンスの充実と進路実現に向けた支援 【進路実現 90%以上】

- ・教育庁地域教育支援部や足立区産業経済部就労支援課と連携しながら、YSWや就職ナビゲーターによるきめ細かな進路相談や就職指導を継続した。さらに今年度は求人票を電子化し、生徒・保護者が個人端末から閲覧できるように改善し、3学年担任団の手厚い指導も相まって「98%」という高い進路決定率を達成した。(なお、今年度から「プロ格闘家」や「芸能関係」についても条件次第では進路決定率にカウントすることとし、生徒の「夢の実現に向けた進路選択」を学校として評価することとした)
- ・今年度の卒業生 150 名中、大学・短大 24 名、専門学校 58 名、職能開発センター 4 名、就職 59 名(学校斡旋 45 名、公務員 3 名、縁故・自営 11 名)、未定 5 名(就活中等含む)という状況である。

※ スキルアップ推進事業への参加促進と事前事後指導

- ・昨年度から継続して、東京都教育委員会「スキルアップ推進校」に指定され、民間事業者による「グローバルスキル講座(実用英語検定講座)」、「デジタルスキル講座」、「コミュニケーションスキル講座(職場体験)」を開講した。しかし、都教委側の不手際もあって「文書作成講座」については頓挫してしまった。
- ・今年度の各講座への申込者数は「グローバルスキル講座、19 名」「デジタルスキル講座、176 名」だった。デジタルスキル講座の受講者数が飛躍的に増えたのは、1 学期末の特別時間割期間中に 2 学年生徒の受講を必須としたためである。なお、1 学年生徒に必須とした夏季休業中の「コミュニケーションスキル講座」の参加率が 59.6%と低迷したことは、インターシップを実施していない本校にとって、今後に向けた課題である。そのためにも、当該学年担任団の結束と共通理解の徹底が必要である。

③ 生活指導 【C】

※ 地域に認められ、社会生活の基礎となる基本的な生活習慣の確立 【中退者 50%減少】

- ・頭髪と服装については、全教職員の指導が徹底され、生徒の状況は落ち着いている。また、毎朝の校門での挨拶指導も定着している。引き続き、落ち着いたエンカレッジスクールの基盤となる生活習慣の確立を念頭に指導していく。
- ・コロナ禍が明けてからも、教職員の働き方改革の一環として、引き続き、時差登校を継続したが、遅刻生徒の増加に歯止めが利かず、「年間の遅刻者の延べ人数 7092 人」となり、目標の 3000 人には遠く及ばなかった。
- ・「特別指導の件数 10 件以下」の目標は達成することはできなかった。SNS 絡みの人間関係のトラブルに加え、喫煙及び同席など、軽微な規則違反が目についた。
- ・「中途退学者 15 名以内」の目標は達成できなかった。さらに中退者 16 名に加え、転学者 15 名を加えると、計 31 名の生徒がこの学校を去ったことになり、決して楽観視してはいけない数字である。

④ 特別活動 【A】

※ 自主・自立の精神と帰属意識の涵養

- ・3 学年生徒がリーダーシップを発揮し、「行事を楽しむ姿勢」が例年以上に素晴らしく、体

育祭・東輝祭（文化祭）・合唱コンクールの3大行事は、過去に例がないほど大いに盛り上がりを見せた。特に、今年度から熱中症対策として、東京武道館を貸し切って体育祭を実施したが、観客席は保護者で満員となり、学校評価における生徒の「学校行事満足度は93%」と高い数値を示した。

- ・3学年の修学旅行は年度当初の4月に実施された。例年と趣向を変え、沖縄から瀬戸内周辺（広島・愛媛・岡山）に行き先を変更して実施されたが、広島で平和学習を行ったり、しまなみ海道をサイクリングしたり、生徒にとっては思い出深い行事となった。
- ・コロナ渦が収束し、和太鼓部・箏曲部・手話部・ボランティア部等を中心に近隣地域との連携・協力関係が復活しつつある。部員数を増やし、より活発な活動へつなげたい。
- ・ボクシング部がインターハイ・ベスト16、手話部が全国手話パフォーマンス甲子園に出場するなど、全国大会レベルの活躍が特筆される。
- ・「海外学校間交流推進校」の指定を受けて、7月にヨルダン（東京体験スクール）、2月にはインドネシアの高校生を受け入れ、授業や部活動を通じた交流を行った。とりわけ、日本の伝統文化（和太鼓・箏曲・茶道・書道）体験は大好評であった。

⑤ 健康指導 【B】

※ 健康的な生活習慣と豊かな心の育成

- ・年3回、臨床発達心理士などによる特別支援研修会を開催し、特別な支援を必要とする生徒に対する指導法を学んだ。また、コミュニケーションに不安のある生徒には、東京都教育委員会が主催するコミュニケーションアシスト講座の受講を勧め、5人が受講した。
- ・入学前予定者説明会での個別相談や入学後の全員面接を実施することで、生徒や保護者の学校生活に対する不安を早期に対応することができた。また年間を通じて、生徒の困りごとにも、自立支援担当や特別支援コーディネーターを中心に、SCやYSWと連携して対応することができた。
- ・コロナ渦が過ぎ去り、感染症対策に緩みが散見された。特に、外部会場を借用して、12月24日に実施予定であった合唱コンクールでは、同時期に蔓延したインフルエンザの影響のためか、全校生徒の約1/5が前日に欠席する事態となり、臨時休校措置を余儀なくされた。

3 翌年度以降の課題と改善策

① 基礎学力をさらに向上させる。

〔現状〕

- ・習熟度別授業、30分授業（国・数・英・社）や少人数指導、スタディガイダンスは学校評価の数値からも一定の成果が認められる。（生徒の満足度86%）
- ・スタディガイダンスの教材にマナトレを導入して3年が経過した。
- ・東京都の学力向上研究校を活用し、放課後補習「マナビバ」を開催している。

〔課題〕

- ・習熟度別授業を実施しているが、同じグループ内でも理解度に大きな差がある。
- ・マナビバの講師確保が困難である。

〔改善策〕

- ・基礎力診断テストの結果を分析し、授業改善につなげる。
- ・研究授業等を活性化し、授業力向上に向けた組織的な取組みを推進する。
- ・次年度から、一人一台端末を活用し、「紙のマナトレ」から脱却することにより、学びの効率化を図る。
- ・ティープロ等を活用し、マナビバの講師確保に努める。

② 中途退学者を15人以下に減らす。

〔現状〕

- ・令和6年度は16人が中途退学し、令和5年度と比較し10人減少した。しかし、中途退学未然防止策は、まだ十分とは言えない。
- ・生活習慣の乱れによる欠時オーバーや未履修が改善しない。
- ・3年間皆勤者は0人だった。

〔課題〕

- ・コロナ禍が明け、生活や行動様式のタガが外れ、生徒の規範意識に緩みが見られる。
- ・チャレンジスクールや特別支援学校との相違点を理解しないまま入学している生徒がおり、いずれもミスマッチが後を絶たない。

〔改善策〕

- ・二人担任制を十分に機能させ、家庭との連携を強化する。
- ・次年度から導入される「スクールカウンセラー複数配置」を活用する。
- ・管理職による特別支援学級訪問を復活し、近隣中学校の特別支援学級担当教員との連携と情報交換を深めていく。

③ 関係機関等との連携を強化して進路決定率を90%以上とする。

〔現状〕

- ・今年度の進路決定率は98%であり、3年連続高水準で目標を達成することができた。
- ・三者面談の実施が徹底され、保護者と連携した進路決定ができている。

〔課題〕

- ・年間を通じた怠学により、年度末まで卒業見込みが立たずに進路活動ができない生徒が複数名いる。
- ・コロナ禍に目についた「自分探しの思考」から脱却できない生徒が散見される。

〔改善策〕

- ・1学年時から進路三者面談を実施し、家庭と連携して進路意識の向上を図る。
- ・自立支援担当教員を活用し、YSW等との連携を密にする。
- ・スキルアップ推進事業を活用し、1学年時のコミュニケーション・スキル講座（ジョブキャンプ）への参加率を100%にする。

④ 生活指導を徹底して生徒の自覚を促し、特別指導10件以下とする。

〔現状〕

- ・特別指導は20件であり、大幅な件数減につながっていない。また、遅刻者数が一向に減少

しない。

- ・依然としてSNSを媒介した人間関係のトラブルが多かった。

〔課題〕

- ・ネットトラブルなど、人間関係の在り方や社会のルール、モラルが十分に身に付いていない。
- ・コロナ禍は収束したが、時差通学をもとに戻すとさらに遅刻数の倍増が予想される。

〔改善策〕

- ・関係機関と連携したセーフティ教室（SNS、情報モラル）の充実を図る。
- ・特別時間割期間中のスタディ・ガイダンスを継続する。

⑤ 入試応募平均倍率 2.0 倍以上を維持する。

〔現状〕

- ・私学の授業料軽減助成の煽りを受け、推薦・前期・後期募集を通して応募倍率が低迷した。
(推薦：2.07 倍、前期：1.05 倍、後期：0.31 倍)。このため、三次募集を実施せざるを得なかった。

〔課題〕

- ・私学の授業料軽減助成や広域通信制の台頭の波を受け、都立高校全体が低迷している。

〔改善策〕

- ・教員の努力だけでは限界である。抜本的な入試改革を都に求める。
- ・次年度から「後期募集」が中止となることを好機と捉え、生徒募集対策を練り直す。

4 数値から見た教育の成果

- ① 今年度の中途退学者は 16 名であり、「15 名以下」という数値目標は達成できなかった。私学の授業料軽減助成の影響による入選倍率低下と、それともなう定員割れの状況は、今後も続くであろうことが予想され、「受け入れた生徒を、如何に全員卒業させるか」が今後の大きな課題となる。

(人) (%)														
年度	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5	6
中退者	18	22	26	22	27	28	12	16	19	13	15	12	26	16
中退率	3.3	3.9	4.6	4	5	5.2	2.3	2.9	3.6	2.6	3.7	2.7	5.5	3
1年生	7	10	15	24	11	12	2	7	10	5	8	6	19	7
在籍者数	550	560	565	565	528	527	529	560	527	488	446	443	477	522
学級数	15	15	15	15	15	15	15	15	15	14	14	14	14	15

② 卒業後の進路決定率の変化

進路決定率は、2年連続で目標の「90%」を上回ることができ、順調な達成状況である。この要因として、昨年度以上の「売り手市場」による求人数の増加や、3学年担任団のきめ細かな生徒支援が背景にあったことが考えられる。また、前述したように、今年度から、芸能・スポ

一ツ関係等における活動も進路決定率に計上することとし、本校への入学を検討している中学生や保護者に対して進路決定率の高さをアピールしたい。

(%)														
年度														
年度	23	24	25	26	27	28	29	30	31	2	3	4	5	6
進路決定率	70.6	79.4	81.4	81	87.2	88.1	90.2	92.4	91.3	86.3	87.9	94.5	93.3	98
大学・短大	9.9	12.4	6.4	6.4	11.6	7	4.9	5.3	9.9	9.8	5.5	10.2	12.5	16
専門学校	33.7	42	34.3	32.4	28.7	35.7	33.7	18.7	33.2	37.3	30.9	28.4	35.6	38.7
就職	27	25	40.7	42.4	47	45.5	51.5	68.4	48.3	39.2	51.5	55.9	45.2	43.3
未定	29.4	20.6	18.6	19.1	12.8	11.9	9.8	7.6	9.8	14.4	12.1	5.5	6	2